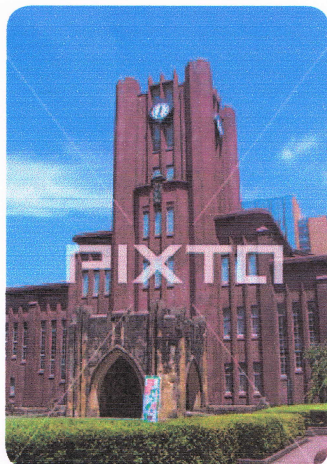


私たちへの
影響

空白の期間にギャップイヤーで
国際競争力の高い新入社員が!?

社会

東京大学の秋入学移行で何が変わるのか



東京大学が秋入学とGYを導入するとすれば、他大学にも大きなインパクトに



石井榮子さん

教育、留学、働く女性、育児等を得意とするフリーライター兼編集者。著書に「親子でできる防犯力」(フレーベル館)など。3児の母

9月入学によって、留学生を受け入れやすくなるというだけでなく、注目したいのは、高校卒業から入学までの間に6カ月の空白期間ができること。東大側では、この期間を留学やボランティア活動などに使うことを検討するそうです。

欧米の大学ではこのような期間をギャップイヤー(以下GY)と呼び、古くから留学やインターンシップ(就業体験)、ボランティアなどさまざまな社会経験や職業体験をしたのち大学や企業に入ることが一般的に行われています。このGYを日本でも推進しようと今年2月に日本ギャップイヤー推進機構協会を立ち上げた砂田薫さんによると、GYは中退の減少や就職力アップなどの効果があるとの調査結果も出ているそう。英国の主要企業の6割は、採用の際に学位よりもGY経験を重視すると答えているそうです。

9月入学によって、留学生を受け入れやすくなるというだけでなく、注目したいのは、高校卒業から入学までの間に6カ月の空白期間ができること。東大側では、この期間を留学やボランティア活動などに使うことを検討するそうです。

国内市場が低迷している日本では、今後就職先を海外に求めることが当たり前になるかもしれません。だとしたら、GYを導入しない日本は、国際的な競争に勝ち残っているのかと心配になってきます。大学にも国際競争力が求められる時代。その一つの策として、GYの導入は注目されています。

東

京大学が7月1日に、全学9月入学を検討し、年内に方針を出す予定と発表し大きく話題になったことを存じでしょうか。

欧米の大学では9月入学がスタンダード。日本でも海外から優秀な留学生を獲得するために9月入学が検討され、学校教育法を改正して2008年から大学の判断で入学時期を変えられるようになりました。慶應大学や上智大学など留学生の受け入れに熱心な大学では既に入学時期を4月と9月の2回設けています。

国内市場が低迷している日本では、今後就職先を海外に求めることが当たり前になるかもしれません。だとしたら、GYを導入しない日本は、国際的な競争に勝ち残っているのかと心配になってきます。大学にも国際競争力が求められる時代。その一つの策として、GYの導入は注目されています。